



たちばな支援学校 学校運営協議会



令和5年度 第4回【2月16日(金)】10:00~11:45

出席者:委員10名、傍聴人4名

1 開会:会長挨拶、学校長挨拶

2 日程説明

3 (1)たちばな応援団について

★は、委員からの意見等

・説明会には、19事業所から25名の参加をいただき、その事業所の中で、高等部2年生の就労体験実習を引き受けていただいていることや県内企業との意見交換会や進路指導部長会で、たちばな応援団を紹介していること等を説明。また、高等部の木工班では、事業所の方に、黒竹の製品開発に関わっていただいていることを紹介(進路指導部長)

★黒竹は、商品の陳列に活用できるのでないか。良いのがあれば依頼したい。

★黒竹を杖にするのもいいのでは。窯業班の製品作りに男山の設備を利用させてもらってはどうか。←体験学習をさせてもらっている。(高等部主事)

・幅広く、たちばな応援団に参加していただくためには?(校長)

★団長の設定が大事

★Instagramや新聞等の活用←本年度より、Instagramを始め、作業製品の紹介や作業工程、おすすめポイントを紹介している。(校長)

★生徒の個人情報についてはどうなっているか?←年度初めに、写真や名前等を出してもよいかといった調査を行っている。(校長)

(2)学校評価アンケート結果及び学校評価について

・保護者のアンケートでは、SNSを基本とした協力をお願いしたが、回収率が低くなった。このことについては、育成会でもご意見をいただき、回収期間の設定等の見直しを行う。全体的には高い評価をいただいた。教職員分では、「ヒヤリハット・アクシデントの共有」「環境美化や整理整頓」「勤務時間を意識した働き方」等に課題があることを説明(教頭)

★組織を維持するためのアンケートになっている。子供の力をどれだけ伸ばせたのが大事

★比較的良くできている。

★委員は、学校に足を運ばないと意見できない。

★ヒヤリハット・アクシデントについては、100%「共有できている」を目指す必要がある。

★校外で子供たちや職員の皆さんにお会いすることがあるが、明るく、好印象を持っている。

★学校周辺は、化石が有名なので、地域資源として活用できるのでは。

★日々の運営の大変さが伝わってきた。連携がキーワードになるのかと思う。

★「私たちの学校では」といった評価ではなく、個人としての評価が必要ではないか。

⇒学校評価だけではなく、学部や学年、分掌でも反省している。個人評価については、今後、検討する。ヒヤリハット・アクシデントの共有については、ご指摘どおりで、現在は、職員朝礼で共有している。(校長)

4 閉会

